

科目名	芸術 I (美術) Art I (Fine Arts)			担当教員	永井 崇幸		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	11220012	単位区別	履修
学習目標	写実描写、構想画、デザイン画などの絵画表現や鑑賞を通して、創造力を伸ばし、豊かな感性と心情を養う。言葉では表現できないことを感じる美意識を深める。						
進め方	相対するイメージを比較することでその本質を見定め、イメージを膨らませて自己の表現を追求させる。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 鉛筆デッサン— ペンを持った手 (2)			鉛筆で明暗をつけ、手の立体感と質感を表現する。2つの異なる物質を表現する際には、質感や大きさなどが相互に関わりあうことを知る。 E6:1			
	2. 記憶の絵地図 着彩 (6)			自分がすごした幼児期・年少期を思い出し、他の人が見てわかりやすい表現をする。 B2:1 自宅周辺をあらゆる絵画表現方法を使って、分かりやすく楽しい絵地図として表現する。 B2:1			
	3. 構成と表現 (1) 色彩の学習 (2) 「楽しい」と「悲しい」の表現 着彩 (7)			色の知覚・心理的効果を学習して、効果的な色彩表現を学ぶ。 E6:1			
	4. 構成と表現 (3) 「寒い」と「暖かい」の表現 着彩 (4) 「明るい」と「暗い」の表現 鉛筆描写、着彩 (6)			はみ出さないように着色できる。混色ができる。比較することで観念的でないイメージを膨らませる。形と色によって、言葉で表現できない表現が可能であることを認識する。 E6:1			
	5. 精密描写 鉛筆デッサン、着彩 (9)			身近にある工業製品の精密描写を試みることで機能美、材質の特性、ロゴマーク、配色などを学習し、立体的な表現ができる。 B2:1 デッサンをして淡彩画の着色をする。 E6:1			
評価方法	自己のイメージをどのように豊かに表現出来ているか。学習内容の全実技作品を時間数の割合で点数化して評価 (90%) (作品が授業時数に相応しい内容で完成。60%)、制作態度(10%)を考慮して総合的に評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	芸術 I (美術) (1年) → 芸術 II (美術) (2年)						
教材	スケッチブックと絵の具 (アクリルガッシュ) を購入。(2年間使用)						
備考	自主的に美術館・ギャラリーなどの鑑賞を奨励。鑑賞レポートは随時受け、評価の対象にします。 学習・教育目標との関係: (A) 「社会と文化に理解を深め、他人の物の見方や考え方を知る。」 (B) 自らのイメージを豊かに膨らますことで、型に入らない新鮮な発想とそれを表現する手段を養うことは、未来を担う技術者の育成に重要である。						